

# 男性の性腺機能障害

## 性腺機能障害

性腺機能障害は、抗がん剤が精巣や男性ホルモンを調整しているところに影響を及ぼすために起こります。精子の形成異常や勃起障害、射精障害、性欲減退といった症状があらわれます。そのため、不妊になったり、妊娠に影響を及ぼしたりします。

## 性腺機能障害が起こりやすい抗がん剤

一般名	商品名
シクロホスファミド	エンドキサン®
イホスファミド	イホマイド®
ベンダムスチン	ベンダムスチン®
ストレプトゾシン	ザノサー®
ダカルバジン	ダカルバジン®
プロカルバジン	プロカルバジン®
シスプラチン	シスプラチン®
カルボプラチン	カルボプラチン®
ベバシズマブ	アバスチン® ベバシズマブBS®
レナリドミド	レブラミド®
ポマリドミド	ポマリスト®

R5年12月現在採用薬剤

がんの種類や放射線治療との併用により、性腺機能障害を起こすこともあります。



## 日常生活での注意点

- パートナーとのコミュニケーションが一番大切なことです。身体の変化や心の状態など、勇気を出して相手に伝えてみましょう。これからの妊娠や出産、性行為についてなど、パートナーやご家族の方と十分にご相談されることをおすすめします。
- これから妊娠や出産をお考えの場合は、主治医と相談したうえで生殖医療の専門病院に相談しましょう。精子保存などをご希望の場合も、医師に相談しましょう。
- 抗がん剤投与から2週間程度は、身体に様々な影響や症状が出現しやすく、感染症や粘膜・皮膚を傷つけてしまう可能性があるため、性行為は避けた方がよいでしょう。
- 薬剤の影響を受けている間の妊娠は胎児に異常をきたす危険性があります。また、パートナーに影響を及ぼす可能性もあるので、避妊することをおすすめします。
- この他にも気になることや不安に思っていることがあれば、遠慮なく医師・看護師に相談してください。